

## 学長定例記者会見要項

日 時： 令和2年6月18日（木） 10：30～11：15

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

### 発表事項

1. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について
2. JST戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）  
「日本－ドイツ国際産学連携共同研究」に採択  
～ドレスデン工科大学及びドイツ企業とオプティクス・フォトンクス分野で二国間共同研究。  
日本側は山形大学と伊藤電子工業(株)が参画。近赤外発光・受光素子を開発～
3. 子ども・子育て用有機EL照明を開発  
～ミキハウス本店用照明・ベビーライト“MOON BEAR”～
4. 大学生が「ウイルス クリーン推進委員会」を立ち上げ  
～ ウイルス感染リスクを低減した飲食店推薦制度 ～
5. ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト  
～ 次代を担う女性のための「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択 ～

### (参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 令和2年7月16日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

## 学長定例記者会見（6月18日）発表者

### 1. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について

学長

たまたま ひでとし  
玉手 英利

### 2. JST 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）

「日本－ドイツ国際産学連携共同研究」に採択

～ ドレスデン工科大学及びドイツ企業とオプティクス・フォトンクス分野で二国間共同研究。

日本側は山形大学と伊藤電子工業(株)が参画。近赤外発光・受光素子を開発 ～

山形大学有機材料システムフロンティアセンター長

きど じゅんじ  
城戸 淳二

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター長

さの たけし  
佐野 健志

### 3. 子ども・子育て用有機EL照明を開発

～ ミキハウス本店用照明・ベビーライト“MOON BEAR” ～

山形大学有機材料システムフロンティアセンター長

きど じゅんじ  
城戸 淳二

### 4. 大学生が「ウイルス クリーン推進委員会」を立ち上げ

～ ウイルス感染リスクを低減した飲食店推薦制度 ～

学術研究院 教授（有機エレクトロニクス）

きど じゅんじ  
城戸 淳二

学術研究院 教授（国際事業化研究センター長）

おのでら ただし  
小野寺 忠司

工学部 高分子・有機材料工学科 2年

かしわや ゆうと  
柏谷 雄斗

### 5. ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト

～次代を担う女性のための「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択～

学術研究院 教授（有機化学・光化学）

くりやま やすなお  
栗山 恭直

学術研究院 准教授（男女共同参画推進室）

いのうえ えいこ  
井上 榮子

令和2年（2020年）6月18日

## 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応状況について

山形大学では「新型コロナウイルスに係る総合対策本部」を1月31日に設置し、学生や教職員への対応方針を検討・決定してきました。昨日6月17日までに合計23回の対策本部会議を開催しており、特に学生への経済支援対策や本学における活動指針について、現在の状況をお知らせします。

※今後さらにスケジュールや対応を変更する場合がありますので、ご承知おきください。

### 1. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生支援奨学金について

4月30日に創設した山形大学基金を原資とする奨学金制度について、第一次募集が定員に達し、6月2日に第二次募集を開始しました（参考：一次募集における支援学生数 200人 / 貸与金額 20,000千円）。第二次募集の支援人数及び支援内容は一次募集と同一で、6月末日まで学生の申請を受け付けます。

学生支援奨学金に関連して、文部科学省の学生支援緊急給付金給付事業「『学びの継続』のための『学生支援緊急給付金』」（令和2年5月19日閣議決定）について、本学では、6月1日から6月10日まで申請を受け付け、1,251件の申請がありました（参考：6月1日現在の学生数 8,665人）。

なお、この給付金の基準を満たさなかった学生に対しては、山形大学基金による独自の支援を検討しています。

昨日6月17日現在の山形大学基金への寄付件数は322件、寄付額は17,168千円となっており、皆様のご支援に心より感謝するとともに、今後も継続した学生支援へのご協力を呼びかけてまいります。

### 2. 本学における新型コロナウイルス感染症に係る活動指針について

本学はこれまで、新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言への対応として、主な活動項目毎に活動制限指針を定め、対応してきました。5月25日に全国的な緊急事態宣言が解除されたことを受け、学生及び教職員が状況に応じて、適切かつ柔軟に活動する目安を示すものとして、新たに「活動指針」として定め、6月19日より以下のとおり対応します（本対応は、本学総合対策本部が当該措置を解除するまで）。

#### ① 教育活動

- ・原則、オンライン授業のみ可

ただし、資格試験に必要な実験・実習・実技及び卒業研究、特別研究の面接授業、その他教育上必要な面接授業については、学士課程基盤教育機構長・学部長・研究科長の判断で可

- ・オンライン授業受講のためのアクセスポイント提供

#### ② 研究活動

- ・感染症対策の徹底をした上で通常どおり

#### ③ 教職員の出勤形態

- ・職務命令権者の判断により、在宅勤務を認める

- ④ 会議
  - ・オンラインによる会議・打合せを推奨
  
- ⑤ 学生の登校制限
  - ・講義受講生及び図書館利用者を除く学生は登校を自粛
  - ただし、登校した場合でも大学滞在は必要最低限の時間とする。
  
- ⑥ 課外活動
  - ・接触を伴わない屋外の活動は可
  - ・着替えなどの最低限の部室利用可
  
- ⑦ 学生支援
  - ・学生相談は、特に必要なもののみ対応（その他は、電話、メール、SNS などで対応）
  - ・事務の窓口対応は、必要最低限で対応
  
- ⑧ 行事等の実施・学内施設への外部への開放等
  - ・イベント（オープンキャンパス、就職ガイダンスなど）は原則オンラインにより実施
  - ・式典（入学式など）は、状況に応じて判断
  - ・学内施設の外部への一般開放及び貸し出しは原則禁止
  - ただし、公的機関及び資格試験（英検など）を主催する団体への貸し出しは可
  
- ⑨ 出張・移動
  - ・感染症対策の徹底をした上で通常どおり

お問い合わせ 山形大学エンロールメント・マネジメント部 広報室（笠原） TEL 023-628-4008 メール koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
--

令和2年（2020年）6月18日

## JST戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）

### 「日本－ドイツ国際産学連携共同研究」に採択

～ドレスデン工科大学及びドイツ企業とオプティクス・フォトニクス分野で二国間共同研究。

日本側は山形大学と伊藤電子工業(株)が参画。近赤外発光・受光素子を開発～

#### 【本件のポイント】

- 山形大学とドレスデン工科大学らによる共同提案が科学技術振興機構（JST）とドイツ連邦教育研究省（BMBF）による国際共同研究プログラムに採択。
- 日本及びドイツ側それぞれの企業と大学の4者でチームを組み、研究開発を行うことが特徴。今回ドレスデン工科大学（ドイツ）、ゼノリクス（ドイツ企業）、山形大学、伊藤電子工業(株)（山形県寒河江市）の4者による共同提案。
- 期間は、2020年10月からの3年間。日本側研究者は、産学合わせて3年間で総額5400万円を上限とした委託研究費を活用して開発を行う。有機エレクトロニクスの新領域の開拓として、有機近赤外発光・分光センサの実現を目指す。



SEAVORICS



伊藤電子工業株式会社  
ITO ELECTRONIC CO.,LTD.

#### 【概要】

科学技術振興機構（JST）戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）「日本－ドイツ国際産学連携共同研究」（オプティクス・フォトニクス）の新規課題として、山形大学とドレスデン工科大学及び両国の企業による提案内容が採択されました。（24件の提案から3件が採択）

研究期間は2020年10月から2023年9月までの3年間で予定、参画機関は、ドレスデン工科大学（ドイツ）、ゼノリクス（ドイツ）、山形大学、伊藤電子工業（株）の4機関です。日本側の委託研究費は、JSTが3年間の総額で産学合わせて5400万円を上限として支援、ドイツ側はドイツ連邦教育研究省（BMBF）が支援します。

今回の提案内容は「小型全有機近赤外発光・分光センサシステムの開発」です。日本側は有機近赤外発光光源、ドイツ側は近赤外分光センサを開発、最終的に両国の技術を組み合わせ、近赤外発光・分光センサシステムを作り上げることを目標としています。近赤外センサは、人感センサや酸素飽和度センサなどで用いられていますが、今回目指す、有機エレクトロニクスを用いた小型化や、複数の波長で分光センシングすることができれば、農産物の熟度などの品質管理や、よりコンパクトで薄型のヘルスケアセンサなどへの応用が可能となります。

日本側で開発を目指す、有機近赤外発光光源は、有機EL技術の新たな領域を拓くチャレンジングな研究開発課題であり、研究代表者の城戸淳二教授（山形大学有機材料システムフロンティアセンター長）を中心に、有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）及び伊藤電子工業(株)の力を結集して開発を行います。

#### 【参考】

- ・ JST 戦略的国際共同研究プログラムについて：

ホームページ：<https://www.jst.go.jp/inter/program/sicorp/germany.html>

採択結果に関する JST プレスリリース：<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1435/index.html>

- ・ 伊藤電子工業株式会社（本社所在地：山形県寒河江市）：

<事業内容> 電子機器・電子部品の設計・製造・販売、半導体製品の組立て。

2007年～2010年 山形県産業技術推進機構有機エレクトロニクス研究所と連携し有機ELパネルの研究開発、

2011年～ 山形大学工学部及びINOELと連携し、有機薄膜太陽電池の研究開発を手掛ける。

#### お問い合わせ

山形大学 有機材料システムフロンティアセンター（FROM）センター長、教授 城戸 淳二

TEL 0238-26-3052 メール [kid@yz.yamagata-u.ac.jp](mailto:kid@yz.yamagata-u.ac.jp)

山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）センター長、教授 佐野 健志

TEL 0238-26-3585 メール [takeshi.sano@yz.yamagata-u.ac.jp](mailto:takeshi.sano@yz.yamagata-u.ac.jp)

令和2年(2020年)6月18日

## 子ども・子育て用有機EL照明を開発 ～ミキハウス本店用照明・ベビーライト"MOON BEAR"～

### 【本件のポイント】

- 山形大学センター・オブ・イノベーション(COI)プロジェクトの一環として、子ども・子育て用に特化した初めての有機EL照明を製作した。
- ミキハウスブランドを展開する三起商行(株)とは、有機EL照明の効果や製品化について共同研究を進めている。その中で、アパレル向けとしては初の店舗用有機EL照明を製作し、ミキハウス本店に設置した。
- 山形大学とオーガニックライティング(株)は、赤ちゃん用有機EL照明としては初めてとなる、ベビーライト"MOON BEAR"を共同で企画開発した。今後クラウドファンディングによる製品化を進める。

### 【概要】

山形大学では、センター・オブ・イノベーション(COI)プロジェクト(実施期間:2013年度から2021年度、支援機関:科学技術振興機構(JST)、文部科学省)において、未来の快適で健康な生活や社会の創造を目指した研究開発や有機エレクトロニクス技術の社会実装を進めています。今回、その一環として、子ども・子育て用の有機EL照明及び、同分野のアパレル向け店舗用有機EL照明を企画・製作しました。子ども・子育て用に特化した有機EL照明の製品化は初の試みです。

ミキハウスブランドを展開する三起商行(株)とは、有機EL照明の利用法や効果などについて共同で検討を行っています。その第一歩として、目に優しく、色の再現性に優れた有機EL照明を、店舗用照明としてミキハウス本社ショールーム(大阪府八尾市、実店舗)に設置し実証実験を開始しました。上質なランドセルやベビーウェアを照らす展示棚用照明として使い、素材や生地の微妙な色合いや風合いを表現しました。

また、山形大学と山形大学発ベンチャーのオーガニックライティング(株)は、初めての赤ちゃん用有機EL照明として、ベビーライト"MOON BEAR"を共同で企画・開発しました。これは、ブルーライト(短波長の青色光)成分が少なく、点光源でないので眩しさが少ない、有機EL照明の特長を活かした製品です。産婦人科医師からも高い評価を受け、今回、クラウドファンディング"Makuake"に出展し、製品化を目指すこととなりました。

今後、山形大学と三起商行(株)は、赤ちゃんや子ども、子育てファミリーにとって最適な光は何かを見出すとの目標に向かって、有機EL照明の効果の確認など、実験的な検証を進める予定です。得られた知見を活かし、家庭用の子育て商品など、新たな製品への展開を目指します。

### 【参考】

- ・三起商行株式会社(大阪府八尾市)  
<事業内容>ベビー、子ども服および子どもを取りまくファミリー関連商品の企画・製造・販売、および出版・教育・子育て支援などの文化事業。2019年より、山形大学COIプロジェクトに参画し、共同で子ども及び子育て向け環境に対する有機EL照明等の適用検討を行っている。  
<代表>代表取締役社長 木村皓一 <設立>1978年9月(昭和53年) <資本金>2,030百万円
- ・オーガニックライティング株式会社(山形県米沢市)：  
<事業内容>有機ELデザイン照明機器・オブジェ等の応用商品の企画・デザイン・開発・販売。  
2009年設立の山形大学発ベンチャー。

#### お問い合わせ

山形大学有機材料システムフロンティアセンター センター長、教授 城戸 淳二  
TEL 0238-26-3052 メール kid@yz.yamagata-u.ac.jp  
山形大学 COI 研究推進機構  
TEL 0238-26-3585 メール coi@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

## 店舗用有機EL照明をミキハウス本店に設置 ～目に優しく、色再現性に優れた光が素材の良さを表現～

### 【本件のポイント】

- 山形大学と三起商行(株)は、出産・子育てに寄与するような新たな製品開発を目指し、有機EL照明の利用法や効果などについて、共同で検討を行っている。
- 今回その一環として、目に優しく、色の再現性に優れた(高演色性の)有機EL照明を、店舗用照明としてミキハウス本店に設置し、実証実験を開始した。
- 常設できるアパレル向けの有機EL照明としては初の試み。展示棚用照明として設置し、来店者の反応をつかむ。今後、店舗用及び家庭用の子育て商品への展開を検討する。



### 【概要】

山形大学とミキハウスブランドを展開する三起商行(株)は、共同でワーキンググループを設置し、出産・子育ての負担軽減や、子育て分野で新たな付加価値を生むような製品開発を目指して共同研究を行っています。

今回、その一環として、目に優しく、素材の良さを際立たせる有機EL照明を、ミキハウス本店(大阪府八尾市)に設置し、共同で実証実験を開始しました。上質なランドセルやベビーウェアなど、素材にこだわった商品の違いを見せる展示棚用照明として用い、実店舗で利用して価値を確かめることが目的です。有機EL照明は、面発光の均一な光を発する光源で、発光スペクトルが自然光に近く、演色性<sup>\*1</sup>(色の見え方)が優れているため、色ずれをおこさず素材の持つ本来の色や丁寧な細部の作りを際立たせることができます。

有機EL照明を常設のアパレル向け店舗用照明として応用するのは、初の試みです。来店者の反応をつかみ、今後、目に優しい有機ELの特長も活かして、出産・子育てを支援するための家庭向け製品に向けた共同開発を進める予定です。

なお、本件は、JST センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムによる共同開発成果です。

### 【研究手法・研究成果】

店舗向け展示棚用有機EL照明を新たに製作し、ミキハウス本店(大阪府八尾市)に設置。同社の上質なランドセル、ベビーウェアなどを照らす照明に用い、その価値を確かめる実験を行っています。今回開始した実証実験では、ランドセルの微妙な色合いやベビードレスのレースの美しさを、新たに設置した照明によって表現できることを確認しました。

### 【今後の展望】

有機ELの優れた演色性(色の見え方)が、アパレル向けの実用照明としても有効であるかを確認し、さらなる展開を目指すとともに、ブルーライト(青色光)成分が少なく人に対して刺激性が低いと考えられる有機EL照明が、子育て向け家庭用品に応用できるかについて、大学と企業で共同検討を進めます。

### ※用語解説

1. 演色性：色の見え方に関する指標。昼光の光を基準とし、照らされた物体の色の色ずれで評価する。  
発光スペクトルの幅が広く自然光に近い白色有機ELは他の光源に比べ高い演色性を実現可能である。

※本件については、三起商行株式会社より同時にプレスリリースしております。

(参考資料2)

## 有機EL照明【ベビーライト“MOON BEAR”】

～クラウドファンディング Makuake へ出展～

### 【本件のポイント】

- ブルーライトが少なく眼への刺激が少ない有機EL照明の特性を生かした、赤ちゃん用有機EL照明ベビーライトを企画・開発
- ベビーライト“MOON BEAR”をクラウドファンディング“Makuake”へ出展し、製品化を目指す。
- 世界で初めて山形大学で開発に成功した白色有機ELの技術を生かした有機EL照明器具を、山形県内だけではなく全国へ展開していくことを目指す。



### 【概要】

山形大学有機材料システムフロンティアセンターの城戸淳二教授は、山形大学で実施している科学技術振興機構（JST）COI プロジェクトの研究開発テーマ「快適生活創造」の一環として、“有機 EL 照明で赤ちゃんの眼と睡眠を守る”をコンセプトに、赤ちゃん用有機 EL 照明 ベビーライト“MOON BEAR”を企画・開発しました。

現在、市場で販売されている照明の光には、いわゆるブルーライトという短波長の青色光成分が多く含まれています。また LED などの点光源の照明は目に眩しく感じます。産まれたばかりの赤ちゃんは強い光の刺激から眼と脳を守るために、眼が見えない状態で産まれてきますので、赤ちゃんの眼と脳は「あかり」にとっても繊細とされています。そのため夜中の授乳やおむつ交換の時に点ける照明の明かりの刺激で赤ちゃんがぐずったり、なかなか寝付けなかったりという悩みが聞かれました。

そんな悩みに対して、赤ちゃんの眼を刺激から守るために、ブルーライトが少ない有機 EL 照明の特性を生かして製作されたのがこの赤ちゃん用有機 EL 照明、ベビーライト “MOON BEAR” です。有機 EL 照明は、面光源なので眩しさが少なく、強い光による刺激を避けることができる他、やさしい自然光のような光を発する高演色性の照明なので、夜中でも赤ちゃんの顔色を正しく見る事ができます。また、成長段階に合わせて、勉強時のデスクライトとしても使用できます。

産婦人科医院での試用を通して、産婦人科医師の先生方にも推奨を頂いたことにより、今回、共同で企画開発を行った、有機 EL 照明器具等企画開発製造販売会社 オーガニックライティング株式会社(山形県米沢市)より、クラウドファンディング “Makuake” に出展し、製品化を目指すこととなりました。

### 【製品の特徴】

- ・有機EL照明は、ブルーライト（短波長の青色光成分）が少なく、面光源でグレア（眩しさ）が少ない、眼に優しい照明です。有機EL照明は自然光に近い高演色性の（色ずれが少なく、色の見え方に優れた）照明なので、夜中でも赤ちゃんの顔色を正しく見る事ができます。また、有機EL照明は消費電力が小さく、家計にも優しい照明です。
- ・ベビーライト “MOON BEAR” は名前の通り、赤ちゃんが好きなクマのフレームをあしらひ、可愛らしいフォルムにデザインされています。ピンク・ブルーの二色を取り揃えています。

### 【クラウドファンディングについて】

以下のサイトに出展し応援購入者を募っています。（クラウドファンディング “Makuake”）

<https://www.makuake.com/discover/projects/?keyword=moon+bear>



### 【今後の展望】

今後、山形大学とミキハウスブランドを展開する三起商行（株）は、共同で立ち上げたワーキンググループを軸に、近畿大学などとも連携して、赤ちゃんや子ども、また子育てファミリーにとって最適な光は何かを見出すための実験検証を行っていく予定です。例えば、山形大学スマート未来ハウスにある実験用寝室などを利用して、赤ちゃんや子ども、子育て世代のお母さんに対し、照明がどのように睡眠や脳波に影響を与えるかなどを、一般照明と有機EL照明とで比較し検証するなどの実験を想定しています。それらの結果を踏まえ、現代社会の強い光にあふれた生活から赤ちゃんを守れるような、また、子育てファミリーがより快適な生活を送ることを支援できるような照明器具あるいは、子育て関連商品の開発に繋げていくことを目標に開発を進めます。

(参考) ミキハウス本店設置 有機EL照明



令和2年（2020年）6月18日

## 大学生が「ウイルス クリーン推進委員会」を立ち上げ ～ウイルス感染リスクを低減した飲食店推薦制度～

### 【本件のポイント】

- 山形大学の学生ら7名が「ウイルス クリーン推進委員会」を立ち上げ、山形大学医学部の専門家監修によりウイルス感染対策ガイドラインを作成した。
- 認証項目を満たす店舗を「ウイルス クリーン推進店」として推薦、ホームページ等で紹介し、感染防止に積極的に取り組む店舗を山形から全国に発信する。
- 学生目線の取り組み・活動を通して、地域の外食産業関連の活性化促進への貢献を目指す。



©2020 西塚 千翔 近藤 菜穂

### 【概要】

山形大学 学術研究院 城戸 淳二教授の提案により、新型コロナウイルスの影響で停滞した外食産業の再活性化へ貢献することを目的として、2020年5月、山形大学・東北芸術工科大学の学生が主体となり、「ウイルス クリーン推進委員会」を立ち上げた。感染対策に努める飲食店を再び安心して人々に利用していただくため、客・店舗双方の視点や、営業形態に合わせた認証項目について検討を重ねた。また、山形大学医学部監修の下、より効果的なウイルス感染防止策をまとめた営業ガイドラインを作成した。

感染対策に取り組む「ウイルス対策推進店」には、東北芸術工科大学 デザイン工学部 グラフィックデザイン学科の学生が作成したオリジナルの推進店ステッカーや、来店されたお客様への依頼事項を親しみ易く記したポスター等を提供し、それらを活用していただくことでウイルス対策に努める店舗の宣伝に繋げる。

豊かな食材や文化に恵まれた山形県の強みを活かし、学生かつ一般の目線から地域の力になるべく立ち上げたこの推薦制度が、今後は他県でも応用できるモデルとなるよう、全国展開を目指す。

### 【背景】

新型コロナウイルスが飲食店から感染拡大している事例が多く報告されており、店舗の営業の制限とともに、消費者も外食を控える傾向がある。山形の魅力あふれる食文化を維持することに貢献したいと考えた大学生たちが、山形大学教員をはじめとするアドバイザーの助言を受けながら、学生主導で動き始める契機となった。

### 【認証について】

ウイルス対策推進店として推薦するための認証項目は、山形大学医学部附属病院 森兼 啓太教授の監修を受けた。従業員の毎日の体調管理の記録や、マスクの着用義務・距離の確保・備品の徹底消毒など、認証項目を一定基準満たしている店舗を推薦。その後、ホームページ上で紹介し、推進店ステッカー等を提供する。認証項目の実施状況は、ウイルス クリーン推進委員会の調査員が利用者となって確認する。

### 【今後の展望】

まず、米沢市の飲食店を始めとした山形県内の複数のモデル店舗を紹介しつつ、委員会ホームページやSNSなどで広く発信する。さらに、この活動を学生間のネットワークを用いて、他県でも本制度の活用を促し、山形から全国規模へ拡大することを視野に入れ、山形県内において年内100店舗以上の推薦を目指す。

お問い合わせ

ウイルス クリーン推進委員会（支援窓口：山形大学国際事業化研究センター内）

メール [info@virus-clean.jp](mailto:info@virus-clean.jp)

令和2年（2020年）6月18日

## ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト

～次代を担う女性のための「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択～

### 【本件のポイント】

- 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択。
- 科学技術分野の第一線で活躍する女性たちとの交流会等を通して、山形県内の女子中高生の科学への興味・関心を高め、理系への進路選択を支援。
- 保護者、教員、一般市民を含め、理系への意識啓発・理解増進に効果的に取り組むことで、女子中高生の理系進路選択に効果が期待される。



### 【概要】

本学が申請したプロジェクトが、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業である、令和2年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されました。このプログラムは、女子中高生の理系分野への興味や関心を高め、理系分野へ進むことを志すための様々な取り組みを支援することを目的として、平成21年度から実施されています。

今回採択されたプロジェクトは、本学が山形県や県内各市町村と連携し、女性の研究者や大学院生が山形県内の中学校や高校を訪問して出前講義や進路講話を行うなど、女子生徒が興味を持ちやすいように工夫した4つのプログラムを山形県全域で提供します。

### 【女子中高生の理系進路選択支援プログラム】

第5期科学技術基本計画<sup>(※)</sup>において、次代を担う女性が科学技術イノベーションに関連して将来活躍できるよう、女子中高生やその保護者へ科学技術系進路に対し興味関心や理解を深める取組を推進するとともに、関係府省や産業界学民間団体など産学官の連携を強化し、理工系分野で女性活躍に関する社会一般から理解の獲得を促進することとされています。また、第4次男女共同参画基本計画においても、科学技術に興味を持つ女子生徒を増やし、理工系分野への進路選択を支援することが施策の基本方針とされています。

これらを踏まえ、同プログラムは、女子中高生の理系分野への興味や関心を高め、理系分野へ進むことを志すための様々な取り組みの支援として JST が平成 21 年度から実施しているもので、令和 2 年度は 12 件が採択されました。（支援期間：最大 2 年間、支援金額：1 企画あたり上限 300 万円／年）

### 【ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト】

連携機関：山形県教育庁、山形県子育て若者応援部若者活躍・男女共同参画課、山形県男女共同参画センター、各市町村教育委員会等

取り組み：

#### ① 中学校向け出前講座

山形県内の4地域（庄内・最上・村山・置賜）の中学校（各地域から1校ずつ、2年間で計8校）を対象に、女性研究者の実験講義と女子大学院生の実験補助による出前講座を提供します。女子生徒が関心をもちやすい題材を選ぶとともに、理系の仕事が社会や人の役に立っていることが伝わるように工夫して実施します。（男子生徒も受講します。）

#### ② 高等学校向け出前講座

高等学校では、現在課題探究のテーマ設定や研究方法など、現場の教員が苦慮している場合があります。そこで、女子大学院生が母校（年に4校、2年間で計8校）で出前講座を行い、探究活動を指導・サポートします。理工系の研究について知ってもらうだけでなく、大学院生として活躍する教え子が成長した様子を教員に認識してもらい、進路指導において、女子生徒へ理工系の進路を勧める機会を増やし、山形県内の教育機関や企業における女性研究者の活躍への理解促進を図ります。（男子高校生も受講します。）

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

③ サイエンスカフェの実施

山形県男女共同参画センターが企画するイベント（チェリアフェスティバル）でサイエンスカフェを開催します。以前チェリアフェスティバルで実施した小学生対象の理科実験イベントが大盛況だったため、本企画では、中高生とその保護者を対象としたサイエンスカフェを実施します。女性研究者の活躍を知ってもらうほか、中高生以下の年代の子をもつ保護者も積極的に取り込み、各世代の科学への興味・関心につなげます。

④ 啓蒙パンフレットの作成と HP での理系女子の活躍紹介記事作成

山形県内の中学1年生全員に「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」の啓蒙パンフレットを配布し、プロジェクトの取り組みを紹介します。HP には、女子大学院生が先輩（OG）の中高生での理系選択理由、大学での学び、就職後の生活などをインタビューした記事を掲載していきます。

**【今後の展望】**

本プロジェクトにより、山形県内の女子中高生が理工系分野への興味・関心を高め、また理工系分野への進学・就職に関する理解を深めるための啓蒙だけでなく、実際に活動している女性研究者や大学院生との対面を通して、女子中高生が興味を持ちやすくすることで、理工系の女子学生・女性研究者が少ないという課題社会に女性が自ら研究内容や企業での職務を提示することにより、将来の理系分野での活躍をイメージすることができます。そして、これらの取り組みが、女子中高生の理系進路選択支援の環境醸成に資することが期待できます。

**※用語解説**

「第5期科学技術基本計画」

科学技術基本法に基づき政府が策定する、10年先を見通した5年間の科学技術の振興に関する総合的な計画のうち、平成28年度～32年度の基本計画として平成28年1月22日に閣議決定されました。この中で、科学技術イノベーションの基盤的な力の強化のために、人材の多様性確保と流動化の促進として、多様な視点や優れた発想を取り入れ、科学技術イノベーション活動を活性化していくためには、女性の能力を最大限に発揮できる環境を整備し、その活躍を促進していくことが不可欠であるとされています。

お問い合わせ

学術研究院 教授 栗山 恭直（理学部 有機化学・光化学）

TEL 023-628-4586（教員居室）

023-628-4506（山形大学 SCITA センター）

メール su187@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp